

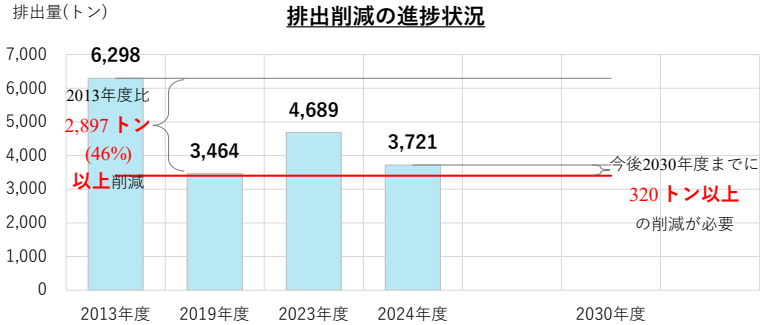
■温室効果ガス削減の目標

| | 削減目標 (政府目標値) |
|--------|--------------------------|
| 2030年度 | 2013年度比 46% (2,897トン) 以上 |
| 2050年度 | カーボンニュートラル |

■温室効果ガス排出量の推移

熊本空港の2024年度の温室効果ガス排出量は、2023年度比968トン減少の3,721トンである。
2030年度の削減目標 (2013年度比46%以上の削減) の達成には、今後320トンの削減が必要である。

| | 温室効果ガス排出量(トン) | | | |
|------|---------------|--------|--------|--------|
| | 2013年度 | 2019年度 | 2023年度 | 2024年度 |
| 空港施設 | 5,896 | 3,084 | 4,312 | 3,345 |
| 空港車両 | 401 | 381 | 377 | 376 |
| 計 | 6,298 | 3,464 | 4,689 | 3,721 |



※小数点以下の端数処理により合計値が整合しないことがある

主に契約されている電力会社の排出係数… 2019年度：0.347、2023年度：0.475、2024年度：0.417
空港全体の商用電力使用量(kWh) …2019年度：772.9万、2023年度：907.0万、2024年度：776.7万

■2020～2024年度の温室効果ガス排出量の増減背景

熊本空港では、2023年度に新ターミナルビルの建設や旧国際線ターミナルビルの解体等の施設整備が行われた。コロナ禍以降、空港の利用 (航空機運航回数や旅客数) は回復傾向にあり、2024年度にはコロナ前の水準を上回ったが、商用電力使用量の減少や主に契約されている電力会社の排出係数の低下 (2023年度比) を主な背景として、温室効果ガス排出量は減少傾向にある。

■2020年度～2024年度の脱炭素化施策の取組状況

| | |
|--------------|--|
| 空港施設に係る取組 | <ul style="list-style-type: none">➢ 建築施設照明のLED化、建築施設の熱負荷低減、空調の高効率熱源の導入や省エネルギー運用等の取組が行われた。➢ 航空灯火のLED化の取組が行われた。 |
| 空港車両に係る取組 | <ul style="list-style-type: none">➢ 電動車の導入、バイオ燃料の活用が行われた。 |
| 再エネ導入促進に係る取組 | <ul style="list-style-type: none">➢ 太陽光発電の導入が行われた。➢ 再エネプランの電力 (グリーン電力) の契約 (新ターミナルビル、別棟ビル、立体駐車場) が行われた。 |
| その他の取組 | (当該期間に新たに実施した取組に関する情報なし) |